

〔学 会〕

東京女子医科大学学会 第37回総会

一般演説の質疑・応答要旨

昭和 46 年 9 月 26 日 (日)

於 東京女子医科大学本部講堂

(総会演説の抄録は本誌第41巻7号に掲載した。)

13. 異種 ALS の免疫抑制効果について

(心研) 千葉 智世・○泉二 登志子

質問 吉岡守正 (微生物) 1) スケジュール A と B とで成績が違ふということであるが、その理由についてのお考えはどうか。2) マウス系統間、ラット系統間で結果に差が認められましたが、またマウス、ラット間で実験されましたか。

応答 泉二登志子 1) スケジュール A では前投与を行ない、B ではこれを行なわず連続投与したものです。抗異種リンパ球血清の場合は、B の方法でより有効でした。抗同種リンパ球血清では、投与方法の差はあまり効果に影響しませんでした。抗異種リンパ球血清では投与方法の選択が高い効果をあげるのに大切で、今回の実験では連続投与が有効でした。2) マウスでは AKR の方が C₃H に C₅₇BL よりも遺伝的に近いと考えられましたが、私達の使用した AKR では必ずしもそうでなく、2 群間に大きな差は認められませんでした。ラットでは Donryu は Sprague-Dawley に比べて Wister に近いものようで、抗異種リンパ球血清の効果も著明でした。抗異種リンパ球血清の使用にあたりつて適合性のよい Doner をえらぶことが大切だと思われました。3) マウス、ラット間の移植は現在行なっておりますが、結果はまだ出ておりません。

応答 千葉智世 (心研) 共同研究者として。1) 抗異種リンパ球血清は、抗同種リンパ球血清に比して効果が劣るものと思われます。したがって抗異種リンパ球血清の使用にあたりましては、むしろ術前投与を行なうよりも、投与間隔を短く投与した方が効果的であるように思われます。2) 動物による効果の違いは、マウスでは近交系のものを用いましたので、かなり uniform でありましたが、ラットでは均一系のものを用いましたのでか

なりばらつきがありました。

22. 小児脳腫瘍——とくに後頭蓋窩腫瘍について

(脳神経外科)

○久保 長生・朝倉 哲彦・喜多村幸一

質問 矢沢知海 (消化器外科) 1) 早期診断と申されますが、疑いを持たねば先生のところへまわりませんか、頭痛を訴えたからと言つて、すべて精密検査をするわけにもいきませんので、何か決め手がありましたら素人のためにご説明下さい。2) また1カ月して、はつきり症状が出ると手おくれとの事ですが、先生の所へ行つて何日ぐらいで確定診断がはつきりしますか。

応答 久保長生 (脳神経外科) 1) 頭痛を初発症状とした場合、Brain Tumor かどうかを決める簡単な検査は、まず眼底所見である。しかし何といつても、その神経症状が主となることはいうまでもありません。小児は、うつ血乳頭後1カ月以内に、視神経萎縮が見られることがあるので、できるだけ早く手術した方がよい。2) 当科の Posterior fossa tumor の診断は、Vertebral angiography で大部分診断が可能である。

24. 高カロリー中心静脈栄養法について

(第二外科)

○馬淵 原吾・中谷 雄三・杉村 忠彦

菅波 威・倉光 秀磨・織畑 秀夫

質問 矢沢知海 (消化器外科) 1) 167日間なさつたそうですが、どんな症例になさつたのですか。2) 本法は管理料が健保でみとめられていませんが、現在24時間の管理は医師がやっているのですか、看護婦ですか。

応答 馬淵原吾 (第二外科) 1) 167日間完全経中心静脈栄養法を行なつた症例は、Pankreas Ruptur, Panperitonitis, 26歳で、術後尿漏出が目立ち、経腸栄養が不能であつたため、当栄養法を施行し、glatt に経過

し、現在は就業致しております。2) Silicon Tube (A-V Shunt Tube) は健康保健に適用されており、その他輸液内容でも適用されておる。

応答 倉光秀磨（第二外科） 1) 高カロリー完全中

心静脈栄養法は、材料、補液組成ともに健康保健で使用できる。2) 24時間持続注入のため、管理は医師看護婦ともに24時間注意している。